

静岡県社会インフラ長寿命化計画 (橋梁及び大型構造物) 改定委員会

1. これまでの委員会の振り返り 【橋梁】

1.これまでの委員会の振り返り

取組（第1回～第3回委員会）

社会インフラ長寿命化計画の方針

インフラメンテナンスの更なる効率化・高度化を推進

取組（検討結果）

1 劣化予測の精度向上

指標の見直し（HI → 健全性の診断区分 I～IV）
最新情報（法定点検結果）を反映

2 再劣化の抑制

劣化原因『水』への対応
（徹底的な止水、流末処理、滞水対策）
知見の周知徹底（マニュアルの活用）
新材料の活用

3 対策優先度の見直し

指標の見直し
IIの細分化
災害発生時のネットワーク機能維持を反映

4 新技術の活用促進

活用目的の明確化、手法の絞り込み
導入手順の明確化（マニュアルの活用）

5 データ取得・管理・利活用

情報プラットフォームの構築
（橋梁台帳システムの改善）

※第4回委員会にて議論

1.これまでの委員会の振り返り

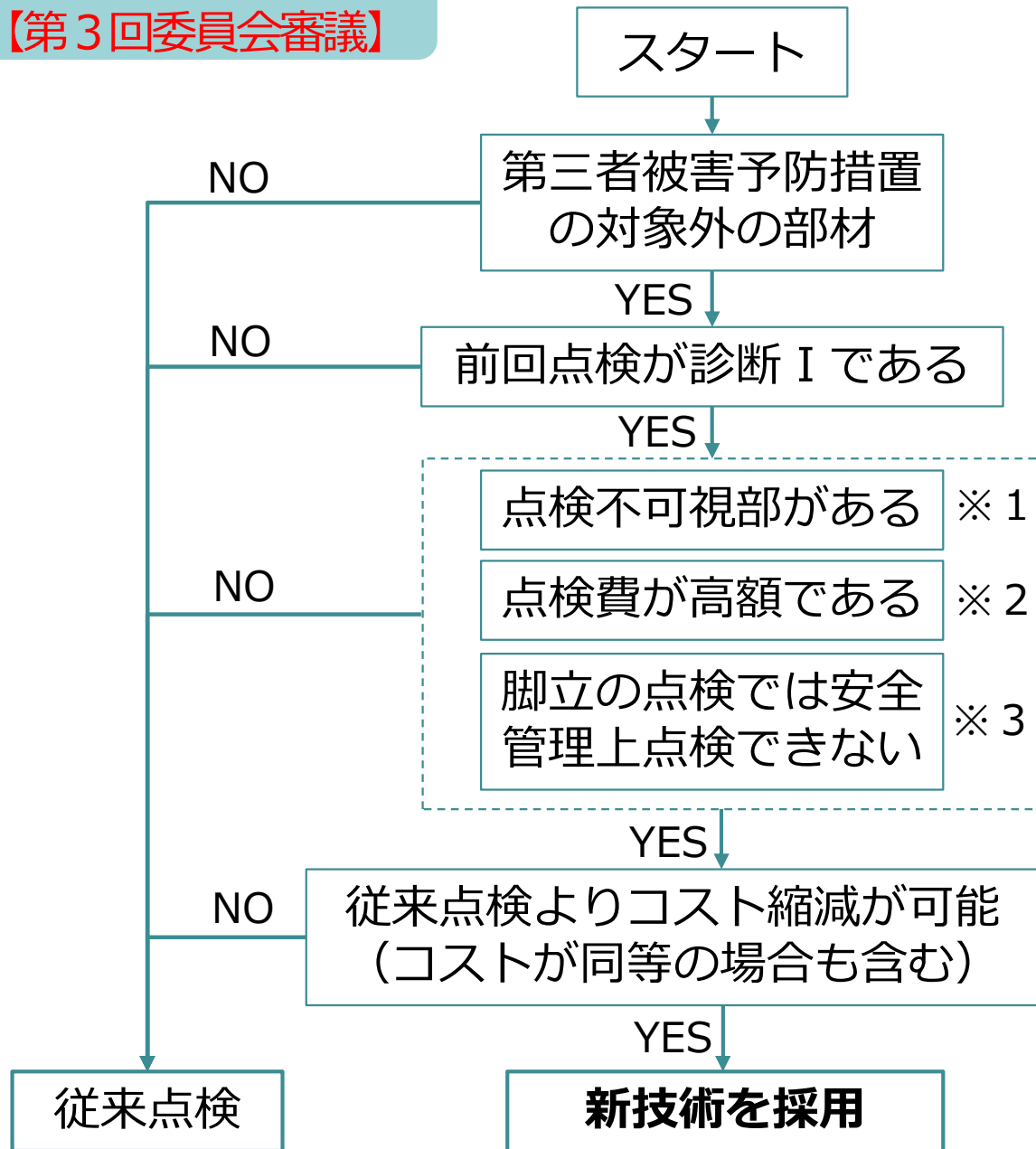
本日の審議内容

項目	内容
1 定期点検における 新技術選定フロー	【本日審議：御意見への対応】 定期点検における新技術活用フローの精度向上
2 データ取得・管理・利 活用の推進	【本日審議：新規】 現状と課題、利活用方法を分析する 橋梁台帳システム等の改修について検討する
3 ガイドライン・中長期 管理計画の改定	【本日審議：新規】 ガイドラインと中長期管理計画の改定概要

1.これまでの委員会の振り返り

定期点検における新技術選定フロー（案） 御意見への対応

対象範囲の選定フロー
【第3回委員会審議】



- ※ 1 点検不可視部の例
 - ・水中部の橋脚の劣化状況
 - ・桁端部の狭隘部の劣化
 - ・舗装下の床版上面コンクリート劣化状況
 - ・PCシースの内部空洞
- ※ 2 点検費が高額である例
 - ・規制費用が高価
 - ・橋梁点検車が高価
 - ・足場が必要
- ※ 3 脚立の点検では安全管理上点検できない例
 - ・河川が岩場で脚立設置設置困難
 - ・河川の土砂が緩んで脚立設置困難
 - ・河川の勾配が急で脚立設置困難

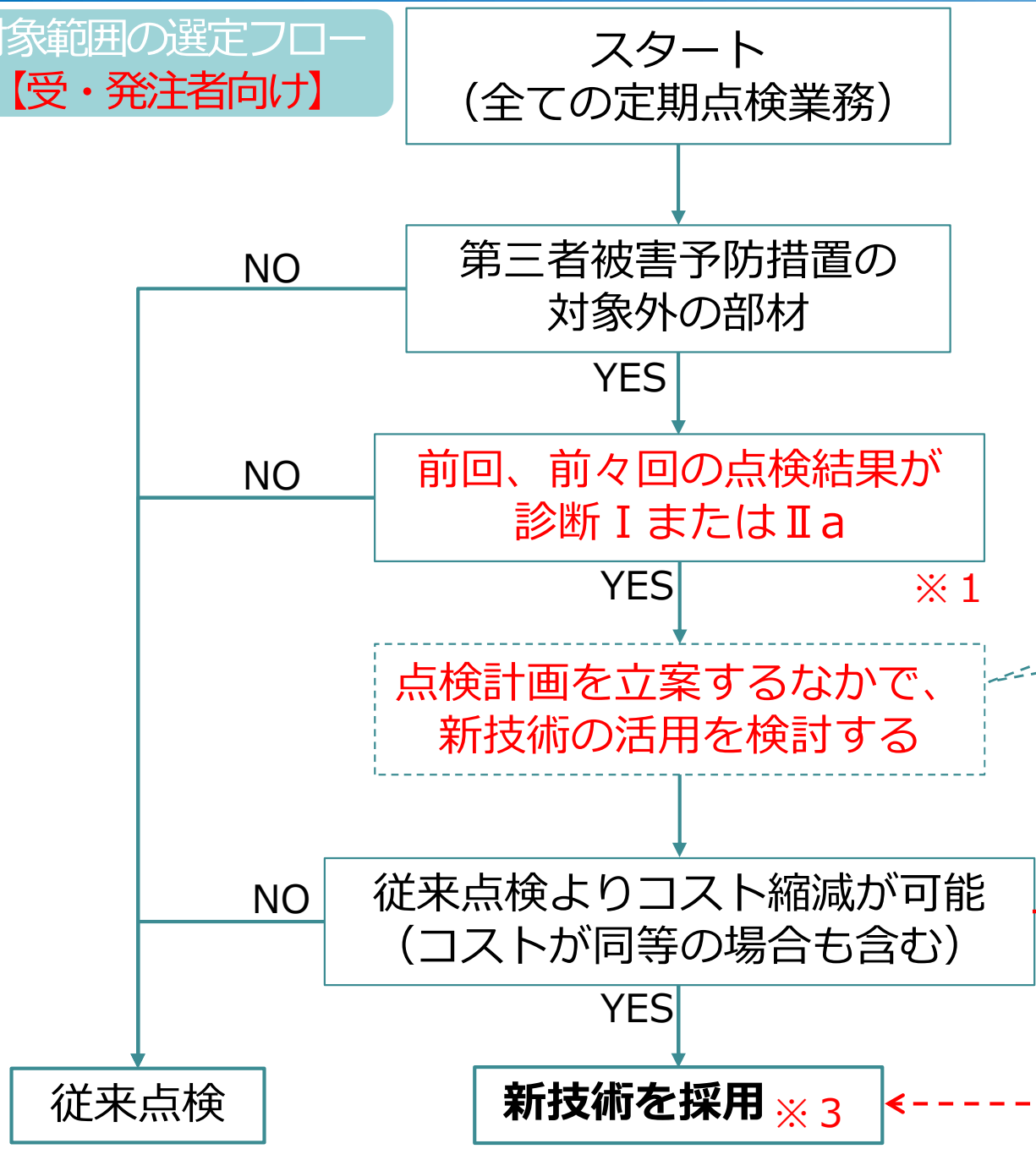
第3回委員会での御意見

- ・誰に向けたフローなのかを明確化する必要がある。
- ・I 判定の橋梁であっても、I 判定が変わらない橋梁なのか II 判定や III 判定に進行する可能性がある橋梁なのかも検討する必要がある。（劣化の進行性を考慮すべき）
- ・これでは、コストは高いが、従来技術では点検不可能な箇所を点検できる「高度化」に繋がる技術や、大幅な「省力化」に繋がる技術が採用されないのではないか。

1.これまでの委員会の振り返り

定期点検における新技術選定フロー（案） 御意見への対応

対象範囲の選定フロー
【受・発注者向け】



- ### 新技術の活用が有効となる例
- (1) 点検不可視部
 - ・水中部の橋脚の劣化状況
 - ・桁端部の狭隘部の劣化
 - ・舗装下の床版上面コンクリート劣化状況
 - ・PCシースの内部空洞
 - (2) 点検費が高額である
 - ・規制費用が高価
 - ・橋梁点検車が高価
 - ・足場が必要
 - (3) 脚立の点検では安全管理上点検できない
 - ・河川が岩場で脚立設置設置困難
 - ・河川の土砂が緩んで脚立設置困難
 - ・河川の勾配が急で脚立設置困難

※1 点検結果が II a と II b に区分されていない場合、診断 I のみを対象とする。

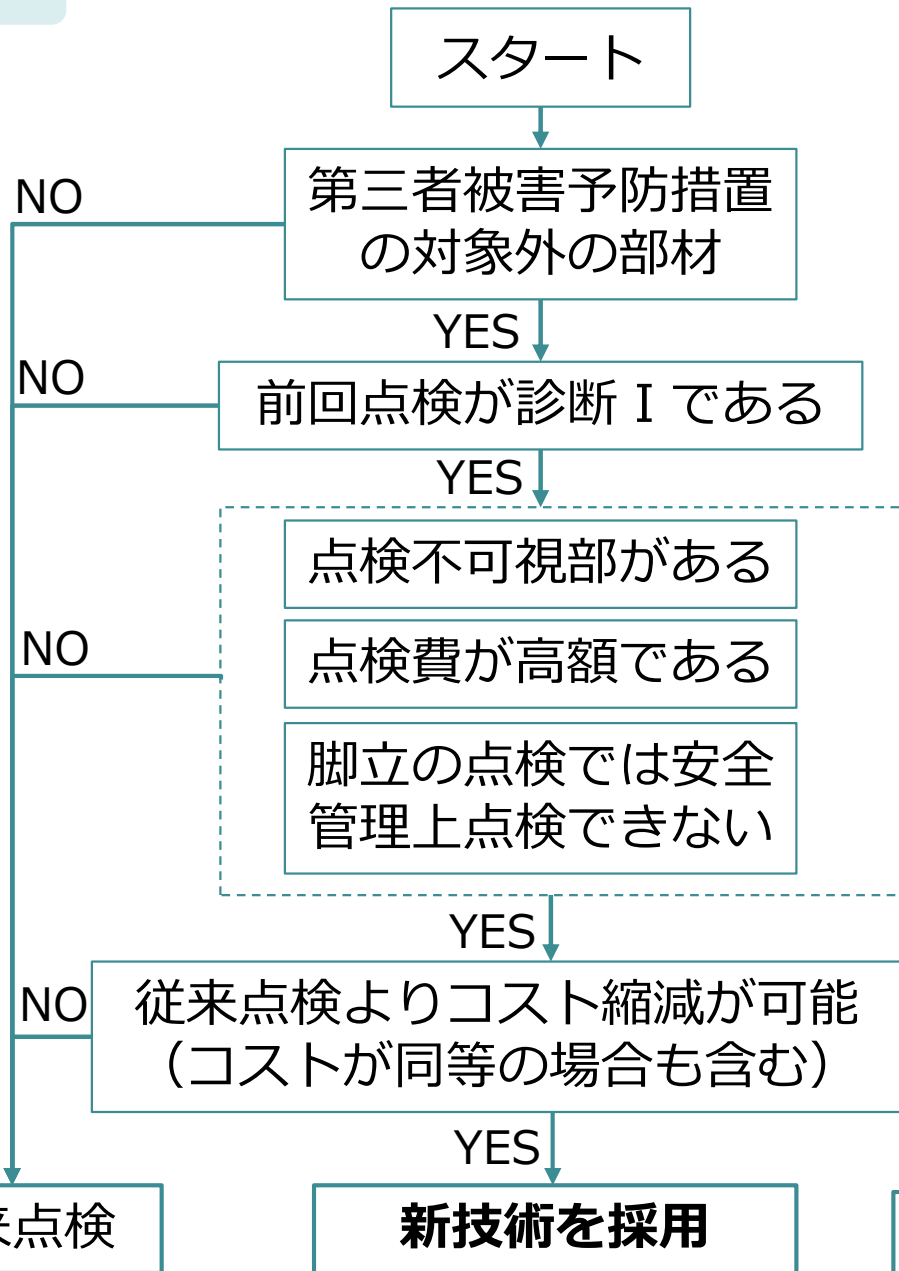
※2 コスト増の場合でも明らかな省力化・高度化が認められる場合、社会的影響、点検精度を踏まえたうえで、新技術を採用するものとし、必要に応じて橋梁班へ相談する。

※3 新技術を採用した場合、次回点検では従来点検（近接目視）とする。

1.これまでの委員会の振り返り

定期点検における新技術選定フロー（案） 御意見への対応

旧



新

